

# Get Heart

No. **39**  
2008. 2



特集

第13回 日野川への想いを語る会

特別講演

「わが心のふるさと日野川」

永瀬正治氏

第10回日野川フォトコンテスト表彰式

# 「わが心のふるさと日野川」

講師

日野川の源流と流域を守る会 会長

永瀬 正治 氏

私は米子の尾高町で生まれ、私の家から南の方の突き当たりに天神さんがございました。天神さんの前に加茂川が流れておりまして、子供のころに加茂川は大変きれいで、魚釣りをしたり泳いだりしてましたが、大変川の流れがきつい場所もあり今見ると、あの川とこの川が一緒なのかと思うほど違って見えます。

私が小学校に入ったのは昭和17年の4月で、その前の年の暮れに日本は太平洋戦争に突入り、4年生頃には米子にもアメリカの飛行機が飛んでくるようになって岸本町上細見に疎開をしたのが昭和20年の4月だろうと思います。その頃の遊び場は専ら「日野川」でした。そのときに見た日野川は、あの加茂川から見ますと本当に大きな川で、すごくきれいで魚がいっぱいおりまして、全く退屈もせず朝から晩まで遊んでおりました。わずから力月の生活でしたが、そこは今でも心のふるさとだと思っております。色々な思い出が物すごく鮮明でありまして、今でもあの辺に行くとなんとなく心がジーンとしてくるんですけども、そんな思い出がございます。それが日野川との一番最初の出会いです。

次にいちばん日野川を意識したのは、米子青年会議所という組織に入り30代半ばで役員をさせていただき全国の色々な街に行ってそこの方々と色々な話しをしたときでした。全国各地、やっぱりいい街には本当にいい川が流れてる。そういう川を現地の若い方々が、「自分たちの歴史や文化をはぐくんできたのは、この川だぞ」ということをしきりに言ってる、そういう皆さん方と話していると、日本全国それぞれの地域でそれぞれの文化をはぐくんできたのは、やはり日本の自然であったり、その自然がはぐくんだ山や川であったり、水であったり、空気であったりということだと気がつきまして、日野川、あるいは大山、中海、日本海をもう一度きちんと自分なりに見直しておく必要があることを思いました。今までここにあるのが当たり前だと思い過ぎていたのではないだろうか、考えてみればそれは、この水があるから俺たちはここまで「おせ、」にしてもらったし、日野川でいろんなものができたり、あるいはその前には「たたら、」という文化があって、そのためにいろんなところの豪族達が群雄割拠をして、歴史をつくり文化をはぐくんできた。そういうようなペースがあったから、今、米子の経済や生活というのがあるというようなことが少しずつ、やっとわかってきた。40歳までに勉強させて頂き、大変ありがたかったと今でも感謝しております。

鳥取県西部は、言ってみりゃ大山と日野川でつくったまちだと。だからそういうお恵みで我々生活させていただいてるっていうことにみんなが少し思いをはせなければいかんと思ひますし、大山に降った水、あるいは日野川水系の水、それが我々の生命線。今、境港、美保関までこの水を皆さん方で飲んでいただいている。日野川から流れてくるのは大変いい水で、本当にうまい。

全国で幾つか水道水をそのままペットボトルに詰めて売ってられるところがあると聞いておりますが、その中でも米子の水は本当にうまい。みんながそう言い、よそから来た人もそうおっしゃいます。

このときには、「実は日野川は、こういう歴史持ってるんだ」ということを、僕は一生懸命語ってやることにしております。特にたたら文化は中世、徳川になってからもそうかもしれないが、自分たちの勢力を支える大きな柱だったんだろうと思ひます。尼子が広瀬にいたのもそうだろうと思ひますが、武器をつくる原材料をここできちんとつくれるかどうかで尼子や毛利がこのあたりで争ったんだろうなどと、思うところを語っております。

僕はこの日野川を本当に心のふるさとだと思っておりますし、ここで生まれ、ここで育ったことに大変誇りを感じております。いろんなところで湧水があるときに米子の水道だけは絶対に心配がないことを何度も感じておりますし、本当に幸せなところに我々は住まわせてもらってる。しかし、あまりそれを自覚してない。この自然がはぐくんだ水は、一説によると100年前に大山に降った水を今我々が享受しているということも聞きます。これは大変なことだと思っておりますし、こんないい水が、こんなに簡単に我々の手に栓をひねるだけで出てくるのも、その川が我々の文化をはぐくみ、我々の生活を潤す、あるいはこれから先もいろんなことをやってくれると思うと、本当にありがたいことだと思っております。

文化ができてくると人間が住む。人間が住むとエネルギーを使う。事実そのとおりであり、昔のエネルギーの源は山の木を切ることなんですね。裸にしてしまったら水を保有しませんから、そこから順番に砂漠化が始まって最終的には砂漠になってしまう。そういう歴史を今繰り返してはいけません、それは物理的に砂漠にしてはいけないということと同時に、人間の心の中に砂漠をつくってはいけないということが、ある本に書いてあります。私たちは、本当にありがたいところに住まわせていただいていることに感謝をしながら、これから先も皆さんと一緒に、日野川、あるいは日野川流域を良いところにして、子孫にも、「あいつらが頑張ってくれて今でもうまい水を飲ませてもらえるわ」というふうになっていくようにしなければならぬと思ひているところであります。





## 日吉津村



日吉津村 村長  
石 操

それぞれの地域活動を一つの流域の活動としてまとめていく、そしてその流域をアピールしていくことは大事じゃないかなと思います。日野川流域で、これは絶対自信があるぞというものをつくり上げて活動につながればよいと思いますし、流域で一つの憲章ができるということだと、下流域、上流域でのそれぞれの活動に関しての情報や苦勞を知っていただくこともできれば、日野川流域全体としての思いが伝わっていくのかなということだと思っております。ごみの不法投棄などの問題にも意識を共通に育てていくという意味で、流域全体の憲章のような取り組みは必要かなと感じます。

## 日南町



日南町 副町長  
狩野 宏

とにかく水は上から下へ流れる、人も結果的に山の方から里の方に移住があるというような状況になっていますが、そういう中でも下流からも上流を見させていただくというような機会ができ、そういう意識を皆さん持ってきてもらったということについては非常にありがたいことだと思っております。それがさらに共通の合い言葉の中で意識共有できるということは非常によいことだと思いますので、ぜひ取り組みを進めていただければと思います。取り組む上では、日野川からの恵み、恵みへの感謝。その恵みに対する恩返し、そして偉大さを誇っていくという思いが柱なのではないかという感じがしております。

## 米子市



米子市企画部次長  
山本 茂樹

皆さんが一つの目標に向かって動けるような、何かそういう大きなものがやはり必要だろうと思います。そういう意味で、憲章というお話は大変いいお話ですので、多数の民間の方が参加している日野川の源流と流域を守る会、行政の集まりである日野川への想いを語る会が中心になって憲章の制定に向けた動きをしていくべきではなからうかなと思います。

## 伯耆町



伯耆町教育長  
圓山 湧一

伯耆町は大山山ろくを抱え、水の保全ということも大変大きな課題になっておるところでございます。また観光という面から見ても、水もきれいで山もきれいだというようなことで、このような憲章の制定ということ、みんなが共通理解をしていくということがとても大事なことだと思います。江府町の鏡ヶ成は自然保護憲章が制定されたということでこれも大変意義のあることでしたし、この日野川流域も憲章のもとで、広くみんながそれを支えていくということになれば大変意義のあることだと思います。

## 日野川河川事務所



日野川河川事務所 所長  
森川 数美

行政組織だけで作り上げるのではなく、流域で活動をしておられる様々な団体の皆さんと意見交換をしつつ作り上げる事ができればいいのではないかと考えております。行政がつくりあげてしまうと、住民の皆さんの活発な活動に繋がらないと思います。

行政あるいは日野川への想いを語る会で支援を行い、いずれは皆さんの意識が高まってNPO日野川なんていうものに発展していけば非常にいいのではないかと感じております。

## 鳥取県日野総合事務所県土整備局



鳥取県日野総合事務所県土整備局 局長  
播磨 振作

この想いを語る会は、行政組織で構成されてる会ですので一般的な話というのは非常にうまく話ができるわけですが、日野川流域でのいろいろな組織や活動を束ねているものがなく、横の連絡がとれてないといいますが、皆さん面映ゆい思いでおられたと思います。

この会を少し広げて、その中に民間も参加して束ねられながら活動して、その中心に憲章があれば参集しやすいという形がいいのではないかと思います。新しい取り組みや活動が今も既にいろいろなところで行われています。その中には、「よし、やろう」という人もおられると思いますので、そういう方をどんどん引き入れながら進めていったらいいかなと思います。

## 日野町



日野町 町長  
景山 享弘

憲章をつくってどれだけの効果があり、先行きどう日野川が生まれ変わるかは見えてこないわけですが、憲章をつくった後それを本当に実行、実践していくのは地域住民の方々です。では、我々の行政、いわゆるまちを預かるものとしては、日野川を汚しちゃいかん、本当にきれいにして下流の人にきれいな水を送り出したいという一念ですが、実際、現実としては川にはゴミが捨てられ、山も田畑もどんどんこれから荒れていく。そういう中で、この憲章がどういうふうに関与するのかわかることを、住んでいる人たちの意見も聞いて実効性のある憲章にすれば、素晴らしいものができるのではないかと思います。

## 江府町



江府町 副町長  
伊藤 友昭

憲章では規制を設けちゃいかんと思うのです。そこが非常にポイントだろうと思います。それぞれの地域で活動しておられるの方々には、それぞれの理念があり、それを一つにまとめるというのは非常に難しい行為だと思います。ただ、そこにオブラートに包んだぼんやりとした理念の憲章になるべきであって、カチッとしたものは多分できないだろうと思います。ネットワークづくりの中でも、やはり行政主導では非常に難しいだろうと。ただ、「みんなの思いを一度、語りませんか？」と、まさに想いを語る会を拡大してやってみるのが一番早いのかなと思います。

## 南部町



南部町 町長  
坂本 昭文

今回の議論から一つ貫かれた憲章というものが何となく姿が見えてきたような気がいたしております。洪水が起きたり、人命まで奪ってしまう恐ろしさというような畏敬の念も持つといった観点を取り入れたり、川から遠ざかっておる暮らし、暮らしの中にもっと川とか水とかそういう親しみやすいような仕掛けというようなことも必要ではないかなというように聞かせていただきました。

日野川への想いを語る会で今後、憲章の制定に向けて取り組んでいくという一つの確認をいただいたと思います。これを行政主導では広がりが少ないと思いますから、できるだけ多くの方々に参加し、考えてもらえる機会をつくり、さらに発起人会をつくり住民の方々にも参加をしていただいて、いろんな意見を言っていただこうということでもあります。これはアンケートをとったりホームページを使ったり、いろいろな手段が考えられるのではないのでしょうか。憲章が関連する活動の起爆剤となるような取り組みを行っていかねばいけませんね。理念ばかりではどうしようもありません。具体的な活動の支援をし、一歩進めば憲章の実行委員会といったようなことにまでなるようサポートしていく必要があるのではないかと思います。

別紙にて、「日野川流域憲章」制定に向けた意見募集を行っています。

# 第10回日野川フォトコンテスト表彰式

第13回日野川への想いを語る会の中で第10回日野川フォトコンテストの表彰式が行われました。



部門	審査結果	題名	氏名	住所
一般Aの部	金賞	旧日野橋と中秋の名月	森永 茂	米子市
	銀賞	霧の向こう	山田 洋司	境港市
	銀賞	日野川カヌー教室	小谷 元伸	江府町
	銅賞	白い装い	野坂 正昭	日野町
	銅賞	清流	大森 博	米子市
	佳作	濁流満々	妹尾 賢次	米子市
	佳作	順風満帆	渡辺 敏美	米子市
一般Bの部	入選	飛沫	釜谷 幸雄	米子市
	入選	なになに？どこどこ？	古谷 美和	米子市
	佳作	水辺の楽校	真砂 美鈴	日古津村
	佳作	春のせせらぎ	佐伯 範夫	安来市
小中学生の部	入選	川と木	長谷川 涼	米子市
	入選	なにかみつけた！	奥谷 路子	米子市
	入選	川の道	小林 真優	米子市
	佳作	妖精の池	仙田 直子	米子市
	佳作	水	松村 佳奈	米子市



—表紙—  
「白い装い」

第10回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 銅賞 野坂 正昭さん  
撮影場所：日野町根雨(日野川)

あなたのところを

# GET HEART

GET HEART  
第39号

編集事務局  
・国土交通省日野川河川事務所

〒689-3537

米子市古豊千 678

TEL (0859) 27 - 5484

発行  
・日野川への想いを語る会

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>

## 編集後記

No.38からNo.39の発行が大変遅れ申し訳なく思っています。

今回の「日野川への想いを語る会」は、憲章を制定しようということで盛り上がりました。参加された皆さんのそれぞれ日野川への強い想いを感じました。

憲章の制定に取りかかるには、まず最初に、多くの皆さんの声を反映する必要があるだろうということで、意見募集を行うこととしました。多くの皆さんの声を反映した憲章ができるよう事務局として努力をしていきますので、応援のほどよろしくお願いします。

T.I